

電 信

保存期間：令和5年12月31日迄

主管

総番号 R0000232

主 管

令和2年 1月 3日 [REDACTED]

トルコ発 中東1

令和2年 1月 3日 [REDACTED]

本 省着

外務大臣殿

宮島 昭夫大使

注意

C
一二電報報
のに取
りす
扱る
い照
は会
慎は重
に報
願通
い信
ま課
す来
電
処理
班内線四
一二三
四二一
に連絡
願いま
す。

カルロス・ゴーン氏のレバノン入国（トルコで拘束された容疑者らの裁判所送致及びMNG航空による刑事告訴：報道）

第6号 [REDACTED]
 往電第5号に関し、
 1月3日、当地報道はカルロス・ゴーン元日産CEOの逃亡を手助けした容疑でイスタンブールで拘束された7名が裁判所に送致された内容及びMNG航空による「刑事告訴」について報じているところ、概要以下のとおり。

1 容疑者7名の裁判所への送致

- (1) 日本からトルコのアタテュルク空港経由でレバノンに逃亡したゴーン氏の逃亡を共助した容疑で開始された捜査において、昨2日、民間航空会社のパイロット4名（イニシャル：N.P., O.B.B., S.K., B.K.S.），同会社責任者1名（イニシャル：O.K.），空港グラウンド会社2名（イニシャル：F.K., ?M.H.）の合計7名が拘束された。
- (2) イエシルキヨイ・シェヒット・シャキル警察署 (Yeşilkiyit Şehit Şakir Tosun Polis Merkezi) における手続き完了後、容疑者らは本3日、バクルキヨイ裁判所に送致された。
- (3) トルコ内務副大臣は、ゴーン氏逃亡に関して捜査官2名により捜査が続けられると発表した。

電 信

注意

一一

電
報
報
の
に
取
関
り
す
扱
る
い
照
は
会
債
は
重
情
に
報
願
通
い
信
ま
課
す
来
電
処
理
班

内
線
四
二
一
三
・
四
二
一
四
に
連
絡
願
い
ま
す。

2 MNG航空による「刑事告訴」

- (1) 1月1日、MNG航空はカルロス・ゴーン氏が日本から逃亡するために使用したチャーター便が違法に使用されたとし、刑事告訴に踏み切った。
- (2) 同航空会社は、「2019年12月、MNG航空は特別機1機に関してドバイから大阪、大阪からイスタンブールに、もう1機をイスタンブールからベイルートの別々の飛行ルートのために別々の顧客に貸し出した。当該特別機2機はそれぞれ関係のないものとして示されている。（逃亡に使用された）2機の特別機使用に関する公式文書にゴーン氏の氏名は存在せず、特別機はMNG航空所属のものでないにもかかわらず、MNG航空によって管理された。」と発表した。
- (3) MNG航空は、公式文書上登録されている搭乗者のためではなく、ゴーン氏の便宜に供与されたことが明らかになった後、内部調査を開始し、トルコ国内において罰するために1月1日に刑事告発した。
- (4) 捜査責任者の尋問に対して、MNG航空社員1名が上司に黙って文書改ざんを行ったと認めた。
- (5) 同社員は、他の違法行為を行った協力者に関する検査に協力している。

3 MNG航空概要

1996年に設立後、ドイツ、英国、カザフスタン、UAE、フランス、リビア、ロシア、中国と定期便を開設するトルコで定期便を提供する唯一の貨物専門民間航空会社。本社はイスタンブールであり、トルコにおける航空貨物の85%のシェアを占める。

転電《添付無》イスタンブール、レバノン、フランス（了）